大学番号：３１６

［平成29年度設置］
計画の区分： 大学の設置

認可

ユマニテク短期大学

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人大橋学園
令和元年５月１日現在

作成担当者
担当部局（課）名
職名・氏名　事務局長（ジムキョクチョウ）　杉本（スギモト）　篤（アツシ）
電話番号　059-356-8170
（夜間）　090-9027-0638
ＦＡＸ　059-356-0036
ｅ－mail　info@jc-humanitec.ac.jp

（注）１　「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
２　大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院　・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し，その下欄に（　　）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例）　〇〇大学　△△学部　□□学科
（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例）
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学　△△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学　△△学部　□□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学　△△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院　〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院　〇〇研究科　〇〇専攻（修士課程）」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学　△△学部　□□学科（通信教育課程）」
３　大学番号の欄については、平成３１年４月２日付事務連絡「履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

＜幼児保育学科＞　　ページ

１．調査対象大学等の概要等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
２．授業科目の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
３．施設・設備の整備状況、経費　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11
４．既設大学等の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12
５．教員組織の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13
６．附帯事項等に対する履行状況等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　22
７．その他全般的事項　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　24

1　調査対象大学等の概要等

（1） 設　置　者

学校法人大橋学園

（2） 大　学　名

ユマニテク短期大学

（3） 調査対象大学等の位置

〒510-0066
三重県四日市市南浜田町4-21

（注）・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（　）書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

（4） 管理運営組織

職　　名	設　　置　　時	変　更　状　況	備　　考
理 事 長	（ オオハシ　マサユキ ） 大橋　正行 （平成29年4月1日）		
学　　長	（ オオハシ　マサユキ ） 大橋　正行 （平成29年4月1日）	（ スズキ　タケオ ） 鈴木　建生 （平成31年4月1日）	学長辞任による
学 部 長			
学科長等	（ホリ　ケンジ） 堀　建治 （平成29年4月1日）		

（注）・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（　）書きで記入してください。
（例）平成３０年度に報告済の内容　→（30）
令和元年度に報告する内容　→（元）
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に，「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

（５）　調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

（注）・　当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
・　なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
・　様式は、平成２７年度開設の４年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの５年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が４年以下の場合には欄を削除し、５年以上の場合には、欄を設けてください。）
・　留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・　短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

（５）－①　調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備　考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
幼児保育学科 短期大学士 （幼児保育学）	教育学・保育学関係	２年	100人	年次 人	200人	

（注）・　定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（　）書きで記入してください。
・　基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
・　学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
・　「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第２号（その２の１））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

（５）－②　調査対象学部等の入学者の状況

区分＼対象年度	平成２７年度		平成２８年度		平成２９年度		平成３０年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備　考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
Ａ　入学定員	人 （　） [　]	人	人 （　） [　]	人	100人 （－） [－]	－人	100人 （－） [－]	－人	100人 （－） [－]	－人	0.50倍	0.50倍	
志願者数	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	31 （－） [－]	（　） [　]	56 （－） [－]	（　） [　]	65 （－） [－]	（　） [　]			
受験者数	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	31 （－） [－]	（　） [　]	56 （－） [－]	（　） [　]	65 （－） [－]	（　） [　]			
合格者数	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	31 （－） [－]	（　） [　]	56 （－） [－]	（　） [　]	65 （－） [－]	（　） [　]			
Ｂ　入学者数	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	31 （－） [－]	（　） [　]	55 （－） [－]	（　） [　]	63 （－） [－]	（　） [　]			
入学定員超過率 Ｂ／Ａ					31.00%		55.00%		63.00%				

（注）・　報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・　（　）内には、編入学の状況について**外数で**記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、((　))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。 該当がない年度には「－」を記入してください。
・　転入学生は記入しないでください。
・　[　　]内には、留学生の状況について**内数で**記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。
・　学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
・　「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで記入してください。
・　「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
・「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「－」を記入してください。

（５）－③　調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 / 学　年	平成２７年度		平成２８年度		平成２９年度		平成３０年度		令和元年度		備　　考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
１年次	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	30 [－] (－)	[　　] (　　)	52 [－] (－)	[　　]	63 [－] (－)	[　　]	
２年次			[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	29 [－] (－)	[　　] (　　)	53 [－] (1)	[　　] (　　)	
３年次					[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	
４年次							[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	
計	[　　] (　　)		[　　] (　　)		30 [－] (－)		81 [－] (1)		116 [－] (1)		

（注）・　報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・　[　　]内には、留学生の状況について**内数で**記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
・（　）内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。
・　編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
・　学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
・　「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

（５）－④　調査対象学部等の退学者等の状況

区分 / 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳 入学した年度	退学者数	うち留学生数	主な退学理由（留学生の理由は[ ]書き）
平成27年度	人	人	平成27年度	人	人	
平成28年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
平成29年度	31 人	1 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	1 人	0 人	学生個人の心身に関する事情（1名）
平成30年度	85 人	4 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	1 人	0 人	就学意欲の低下（1名）
			平成30年度	3 人	0 人	学生個人の心身に関する事情（2名）、 就学意欲の低下（1名）
令和元年度	116 人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合　計		5 人		人	人	

（注）・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。（在学者数から退学者数を減らす必要はありません。）
・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下（○人）」というように、その人数も含めて記入してください。
（記入項目例）・就学意欲の低下　・学力不足　・他の教育機関への入学・転学　・海外留学
・就職　・学生個人の心身に関する事情　・家庭の事情　・除籍　・その他

（５）－⑤　調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \text{\#DIV/0!}\ \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \text{\#DIV/0!}\ \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{31} = 3.22\ \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{85} = 4.7\ \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{116} = 0\ \%$$

（注）・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

2　授業科目の概要

＜幼児保育学科＞

（1）ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
教養科目	日本国憲法	1後		2							1
	法の精神	2前		2							1
	宗教と倫理	1前		2			1				
	人間の生と死	2後		2			1				
	キャリアデザインⅠ	1後		1							1
	キャリアデザインⅡ	2前		1							1
	生活とかがく	2後		2		1					
	地域と暮らし	2後		2							1
	くらしと経済	2前		2							1
	リズム遊び	1前		2			1				
	人間と健康	1前		1							1
	国語表現法	2後		2							1
	国際社会と日本	1後		2							1
	現代社会と環境	2前		2			1				
	多文化共生とことば	2前		2							1
	外国語コミュニケーションⅠ(英語)	1前		1							1
	外国語コミュニケーションⅡ(英語)	1後		1							1
	外国語コミュニケーションⅠ(中国語)	1前		1							1
	外国語コミュニケーションⅡ(中国語)	1後		1							1
	情報処理Ⅰ	1前		1		1					
	情報処理Ⅱ	1後		1		1					
	スポーツ・レクリエーション実技	1通		2							1
	小計(22科目)	－									
専門教育科目	保育原理	1前	2			1					
	教育原理	1前	2								1
	児童家庭福祉	1後		2		1					
	社会福祉	1前		2				1			
	相談援助	2前		1					1		
	社会的養護	1後		2		1					
	教職概論	1前	2			1					
	教育心理学	1前	2								1
	保育の心理学	2前		1							1
	こどもの保健Ⅰ	1後		2							1
	こどもの保健Ⅱ	2前		2			1				
	こどもの保健Ⅲ	2前		1			1				
	こどもの食と栄養	2通		2							1
	家庭支援論	2後		2		1					
	教育課程論	1後	2								1
	保育内容総論	1前	1			1					
	健康指導法	2前	1			1					
	人間関係指導法	1後	1			1	1				
	環境指導法	2後	1			1					1
	言葉指導法	1前	1			1					
	乳児保育	2通		2			1				
	障がい児保育Ⅰ	1後		1			1				
	障がい児保育Ⅱ	2前		1							1
	社会的養護内容	1後		1		1					
	教育・保育相談	2後	2								1
	保育表現技術Ⅰ(音楽)	2後		1			1				
	保育表現技術Ⅱ(造形)	2前		1		1					
	保育表現技術Ⅲ(身体)	2後		1					1		
	保育表現技術Ⅳ(言葉)	2前		1		1					
	児童文化	1前		1		1					
	保育実習Ⅰ	2前		4		1		2	2		

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
教養科目	日本国憲法	1後		2							1
	法の精神(未開講)	2前		2							1
	人間の生と死(未開講)	2後		2							1
	キャリアデザインⅠ	1後	1								1
	キャリアデザインⅡ	2前		1							1
	生活とかがく	1前2後		2		1					
	地域と暮らし(未開講)	2後		2							1
	くらしと経済(未開講)	2前		2							1
	リズム遊び	1前		2			1				
	人間と健康	1前		1							1
	国語表現法	1後		2							1
	リズム遊び	1前		2			1				
	人間と健康	1前		1							1
	国際社会と日本(未開講)	2後		2							1
	現代社会と環境(未開講)	2前		2			1				
	多文化共生とことば(未開講)	2前		2							1
	あそび入門	1後		2		3			1		
	心理学	1後		2							1
	外国語コミュニケーションⅠ(英語)	1前		1							1
	外国語コミュニケーションⅡ(英語)	1後		1							1
	外国語コミュニケーションⅠ(中国語)	1前		1							1
	外国語コミュニケーションⅡ(中国語)	1後		1							1
	情報処理Ⅰ	1前		1		1					
	情報処理Ⅱ	1後		1		1					
	スポーツ・レクリエーション実技	1通		2							1
	小計(25科目)	－									
専門教育科目	保育原理	1前	2			1					
	教育原理	1前	2								1
	子ども家庭福祉	1前		2		1					
	社会福祉	1前		2				1			
	相談援助	2前		1				1			
	社会的養護Ⅰ	1後		2		1					
	教職概論	1前	2			1					
	教育心理学	1前	2								1
	保育の心理学	2前		1							1
	子どもの保健	1後		2							1
	こどもの保健Ⅱ	2前		2		1					
	こどもの保健Ⅲ	2前		1		1					
	こどもの食と栄養	2通		2							1
	家庭支援論	2後		2		1					
	教育課程論	1後	2								1
	保育内容総論	1前	1			1					
	健康指導法	2前	1			1					
	人間関係指導法	1後	1			1					
	環境指導法	2後	1			1					1
	言葉指導法	1前	1			1					
	乳児保育	2通		2		1					
	障がい児保育	1後		1					1		
	障がい児保育Ⅱ	2前		1							1
	社会的養護Ⅱ	1後		1			1				
	教育・保育相談	2後	2								1
	保育表現技術Ⅰ(音楽)	2後		1			1				
	保育表現技術Ⅱ(造形)	2前		1		1					
	保育表現技術Ⅲ(身体)	2後		1					1		

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
	保育実習指導Ⅰ	1後2前		2		1		1	2		
	保育・教職実践演習	2後	2			3		1	2		
	教育と社会	1後	2			1					
	教育方法と技術	1前	2			1					
	保育指導法	2前	2			1					
	幼児の音楽Ⅰ	1前	1				1	1			2
	幼児の音楽Ⅱ	1後	1				1	1			2
	幼児の音楽Ⅲ	2前		1			1				2
	幼児の音楽Ⅳ	2後		1			1				2
	幼児の図画工作Ⅰ	1前	1			1					
	幼児の図画工作Ⅱ	1後	1			1					
	幼児の体育Ⅰ	1後	1						1		
	幼児の体育Ⅱ	2前	1						1		
	幼児の生活Ⅰ	1前	1			1					
	幼児の生活Ⅱ	1後	1			1					
	レクリエーション論	1前		2				1			
	保育実習Ⅱ	2前		2				1	1		
	保育実習指導Ⅱ	2前		1				1	1		
	保育実習Ⅲ	2前		2				1	1		
	保育実習指導Ⅲ	2前		1				1	1		
	基礎ゼミナールⅠ	1前	1			3	1	2	3		
	基礎ゼミナールⅡ	1後	1			3	1	2	3		
	専門ゼミナールⅠ	2前	1			4	1	1	3		
	専門ゼミナールⅡ	2後	1			4	1	1	3		
	幼稚園教育実習Ⅰ	1後		1		2		1	1		
	幼稚園教育実習Ⅱ	2後		3		2		1	1		
	幼稚園教育実習事前事後指導	1前		1		2		1	1		
	乳幼児の理解	2後		2							1
	障がい児の理解	2前		2			1				
	障がい児の支援	2前		2							1
	子育て支援演習	2通	1			1			2		
	地域ボランティア実践	1通	1			1	1		1		
	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	2前		2							1
	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法	2後		2							1
	小計（65科目）	－									
合計（87科目）		－									

卒業要件及び履修方法

教養科目10単位以上、必修科目40単位を修得し，62単位以上修得すること。

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
	保育表現技術Ⅳ(言葉)	2前		1		1					
	保育実習Ⅰ	2前		4		1	2	1	2		
	保育実習指導Ⅰ	1後2前		2		2		1	2		
	保育・教職実践演習	2後	2			1	2		2		
	教育と社会	1後	2			1			1		
	教育方法と技術	1前	2			1					
	保育指導法	2前	2			1					
	幼児の音楽表現Ⅰ	1前	1				1				4
	幼児の音楽表現Ⅱ	1後	1				1				4
	幼児の造形表現Ⅰ	1前	1			1					
	幼児の造形表現Ⅱ	1後	1			1					
	幼児の健康	1後	1						1		
	幼児の音楽Ⅲ	2前		1			1				3
	幼児の音楽Ⅳ	2後		1			1				3
	幼児の体育Ⅱ	2前	1						1		
	幼児の環境	1後	1			1					
	レクリエーション論	1前		2				1			
	保育実習Ⅱ	2前		2			1		1		
	保育実習指導Ⅱ	2前		1			1		1		
	保育実習Ⅲ	2前		2			1	1			
	保育実習指導Ⅲ	2後		1			1	1			
	基礎ゼミナールⅠ	1前	1			1	3	1	2		
	基礎ゼミナールⅡ	1後	1			1	3	1	2		
	専門ゼミナールⅠ	2前	1			1	3	1	2		
	専門ゼミナールⅡ	2後	1			1	3	1	2		
	幼稚園教育実習Ⅰ	1後		1		1	1		1		
	幼稚園教育実習Ⅱ	2後		3		1	1		1		
	幼稚園教育実習事前事後指導	1前		1		1	1		1		
	乳幼児の理解	2後		2							1
	障がい児の理解	2前		2							1
	障がい児の支援	2後		2							1
	子育て支援演習	2通	1			1	1		1		
	地域ボランティア実践	1通	1			2		1			
	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	2前		2							1
	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法	2後		2							1
	小計（63科目）	－									
合計（88科目）		－									

卒業要件及び履修方法

教養科目10単位以上、必修科目40単位を修得し，62単位以上修得すること。

【平成２９年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
教養科目	日本国憲法	1後		2							1
	法の精神	2前		2							1
	宗教と倫理	1前		2			1				
	人間の生と死	2後		2			1				
	キャリアデザインⅠ	1後		1							1
	キャリアデザインⅡ	2前		1							1
	生活とかがく	2後		2		1					
	地域と暮らし	2後		2							1
	くらしと経済	2前		2							1
	リズム遊び	1前		2			1				
	人間と健康	1前		1							1
	国語表現法	2後		2							1
	国際社会と日本	1後		2							1
	現代社会と環境	2前		2			1				
	多文化共生とことば	2前		2							1
	外国語コミュニケーションⅠ(英語)	1前		1							1
	外国語コミュニケーションⅡ(英語)	1後		1							1
	外国語コミュニケーションⅠ(中国語)	1前		1							1
	外国語コミュニケーションⅡ(中国語)	1後		1							1
	情報処理Ⅰ	1前		1		1					
	情報処理Ⅱ	1後		1		1					
	スポーツ・レクリエーション実技	1通		2							1
	小計(22科目)	－									
専門教育科目	保育原理	1前	2			1					
	教育原理	1前	2								1
	児童家庭福祉	1後		2		1					
	社会福祉	1前		2				1			
	相談援助	2前		1					1		
	社会的養護	1後		2		1					
	教職概論	1後	2			1					
	教育心理学	1前	2								1
	保育の心理学	2前		1							1
	こどもの保健Ⅰ	1後		2							1
	こどもの保健Ⅱ	2前		2			1				
	こどもの保健Ⅲ	2前		1			1				
	こどもの食と栄養	2通		2							1
	家庭支援論	2後		2		1					
	教育課程論	1後	1								1
	保育内容総論	1前	1			1					
	健康指導法	2前	1			1					
	人間関係指導法	1後	1			1	1				
	環境指導法	2後	1			1					1
	言葉指導法	1前	1			1					
	乳児保育	2通		2			1				
	障がい児保育Ⅰ	1後		1			1				
	障がい児保育Ⅱ	2前		1							1
	社会的養護内容	1後		1		1					
	教育・保育相談	2後	2								1
	保育表現技術Ⅰ(音楽)	2後		1			1				
	保育表現技術Ⅱ(造形)	2前		1		1					
	保育表現技術Ⅲ(身体)	2後		1					1		
	保育表現技術Ⅳ(言葉)	2前		1		1					
	児童文化	1前		1		1					
	保育実習Ⅰ	2前		4		1		2	2		
	保育実習指導Ⅰ	1後2前		2		1		1	2		

【平成３０年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
教養科目	日本国憲法	1後		2							1
	法の精神	2前		2							1
	宗教と倫理	1前		2			1				
	人間の生と死	2後		2			1				
	キャリアデザインⅠ	1後		1							1
	キャリアデザインⅡ	2前		1							1
	生活とかがく	2後		2		1					
	地域と暮らし	2後		2							1
	くらしと経済	2前		2							1
	リズム遊び	1前		2			1				
	人間と健康	1前		1							1
	国語表現法	1後		2							1
	国際社会と日本	2後		2							1
	現代社会と環境	2前		2			1				
	多文化共生とことば	2前		2							1
	外国語コミュニケーションⅠ(英語)	1前		1							1
	外国語コミュニケーションⅡ(英語)	1後		1							1
	外国語コミュニケーションⅠ(中国語)	1前		1							1
	外国語コミュニケーションⅡ(中国語)	1後		1							1
	情報処理Ⅰ	1前		1		1					
	情報処理Ⅱ	1後		1		1					
	スポーツ・レクリエーション実技	1通		2							1
	小計(22科目)	－									
専門教育科目	保育原理	1前	2			1					
	教育原理	1前	2						1		1
	児童家庭福祉	1前		2		1					
	社会福祉	1前		2				1			
	相談援助	2前		1					1		
	社会的養護	1後		2		1					
	教職概論	1前	2			1					
	教育心理学	1前	2								1
	保育の心理学	2前		1							1
	こどもの保健Ⅰ	1後		2							1
	こどもの保健Ⅱ	2前		2			1				
	こどもの保健Ⅲ	2前		1			1				
	こどもの食と栄養	2通		2							1
	家庭支援論	2後		2		1					
	教育課程論	1後	1								1
	保育内容総論	1前	1			1					
	健康指導法	2前	1			1					
	人間関係指導法	1後	1				1				
	環境指導法	2後	1			1					1
	言葉指導法	1前	1			1					
	表現指導法	1前	1				1				
	乳児保育	2通		2			1				
	障がい児保育Ⅰ	1後		1					1		
	障がい児保育Ⅱ	2前		1							1
	社会的養護内容	1後		1		1					
	教育・保育相談	2後	2						1		1
	保育表現技術Ⅰ(音楽)	2後		1			1				
	保育表現技術Ⅱ(造形)	2前		1		1					
	保育表現技術Ⅲ(身体)	2後		1					1		
	保育表現技術Ⅳ(言葉)	2前		1		1					
	児童文化	1後		1		1					
	保育実習Ⅰ	2前		4		1	1	1	2		

【平成２９年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	保育・教職実践演習	2後	2			3		1	2		
	教育と社会	1後	2			1					
	教育方法と技術	1前	2			1					
	保育指導法	2前	2			1					
	幼児の音楽Ⅰ	1前	1				1	1			2
	幼児の音楽Ⅱ	1後	1				1	1			2
	幼児の音楽Ⅲ	2前		1			1				2
	幼児の音楽Ⅳ	2後		1			1				2
	幼児の図画工作Ⅰ	1前	1			1					
	幼児の図画工作Ⅱ	1後	1			1					
	幼児の体育Ⅰ	1後	1						1		
	幼児の体育Ⅱ	2前	1						1		
	幼児の生活Ⅰ	1前	1			1					
	幼児の生活Ⅱ	1後	1			1					
	レクリエーション論	1前		2				1			
	保育実習Ⅱ	2前		2				1	1		
	保育実習指導Ⅱ	2前		1				1	1		
	保育実習Ⅲ	2前		2				1	1		
	保育実習指導Ⅲ	2前		1				1	1		
	基礎ゼミナールⅠ	1前	1			3	1	2	3		
	基礎ゼミナールⅡ	1後	1			3	1	2	3		
	専門ゼミナールⅠ	2前	1			4	1	1	3		
	専門ゼミナールⅡ	2後	1			4	1	1	3		
	幼稚園教育実習Ⅰ	1後		1		2		1	1		
	幼稚園教育実習Ⅱ	2後		3		2		1	1		
	幼稚園教育実習事前事後指導	1前		1		2		1	1		
	乳幼児の理解	2後		2							1
	障がい児の理解	2前		2			1				
	障がい児の支援	2前		2							1
	子育て支援演習	2通	1			1			2		
	地域ボランティア実践	1通	1			1	1		1		
	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	2前		2							1
	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法	2後		2							1
	小計（65科目）	－									
	合計（87科目）	－									

卒業要件及び履修方法

教養科目10単位以上、必修科目40単位を修得し，62単位以上修得すること。

【平成３０年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	保育実習指導Ⅰ	1後2前		2		1	**1**	**1**	2		
	保育・教職実践演習	2後	2			3	**1**		2		
	教育と社会	1後	2			1			**1**		
	教育方法と技術	1前	2			1					
	保育指導法	2前	2			1					
	幼児の音楽Ⅰ	1前	1				**2**				**3**
	幼児の音楽Ⅱ	1後	1				**2**				**3**
	幼児の音楽Ⅲ	2前		1			1				**3**
	幼児の音楽Ⅳ	2後		1			1				**3**
	幼児の図画工作Ⅰ	1前	1			1					
	幼児の図画工作Ⅱ	1後	1			1					
	幼児の体育Ⅰ	1後	1						1		
	幼児の体育Ⅱ	2前	1						1		
	幼児の生活Ⅰ	1前	1			1					
	幼児の生活Ⅱ	1後	1			1					
	レクリエーション論	1前		2				1			
	保育実習Ⅱ	2前		2			**1**		1		
	保育実習指導Ⅱ	2前		1			**1**		1		
	保育実習Ⅲ	2前		2				1	1		
	保育実習指導Ⅲ	2後		1				1	1		
	基礎ゼミナールⅠ	1前	1			3	**2**	**1**	3		
	基礎ゼミナールⅡ	1後	1			3	**2**	**1**	3		
	専門ゼミナールⅠ	2前	1			4	**2**	**1**	3		
	専門ゼミナールⅡ	2後	1			4	**2**	**1**	3		
	幼稚園教育実習Ⅰ	1後		1		2	**1**		1		
	幼稚園教育実習Ⅱ	2後		3		2	**1**		1		
	幼稚園教育実習事前事後指導	1前		1		2	**1**		1		
	乳幼児の理解	2後		2							1
	障がい児の理解	2前		2					1		
	障がい児の支援	2後		2							1
	子育て支援演習	2通	1			1			2		**1**
	地域ボランティア実践	1通	1			1	1		1		
	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	2前		2							1
	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法	2後		2							1
	小計（64科目）	－									
	合計（86科目）	－									

卒業要件及び履修方法

教養科目10単位以上、必修科目40単位を修得し，62単位以上修得すること。

（注）・　報告年度の5月１日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・　本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
・　認可申請書又は設置届出書の様式第２号（その２の１）に準じて作成してください。
・　各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
・　「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
・　履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
・　１ページ目には認可時又は届出時と報告年度２つの表を記入してください。
・　不要な年度（平成２９年度開設であれば平成２８年度）の表は適宜削除してください。
（２つの表が１ページに表示されるようにしてください。）

（１）ー②授業科目表に関する変更内容

【平成２９年度】

特になし。

【平成３０年度】

・専任教員がAC教員審査にて講師から准教授への職位変更が認められたため、同教員担当科目の専任教員等の配置を講師を１名減とし、准教授１名を増員したものとして変更。
・「教育原理」について、教育効果を考慮し、専任教員等の配置を「兼任教員１」に「助教１」に加えて、変更（該当教員はAC教員審査済）。
・「教育と社会」について、教育効果を考慮し、専任教員等の配置を「教授１」に「助教１」を加えて、変更（該当教員はAC教員審査済）。
・「障がい児の理解」について、専任教員等の配置を「准教授１」から「助教１」へ変更。
・「教育・保育相談」について、専任教員等の配置を「兼任・兼担１」に「助教１」を加えて、変更。
・「子育て支援演習」は教育効果を考慮し、専任教員等の配置を「兼任・兼担０」から「兼任・兼担１」へ変更。
・「幼児の音楽Ⅰ」「幼児の音楽Ⅱ」「幼児の音楽Ⅲ」「幼児の音楽Ⅳ」は教育効果を考慮し、専任教員等の配置を「兼任・兼担２」から「兼任・兼担３」に変更。
・「専門ゼミナールⅠ」「専門ゼミナールⅡ」は教育効果を考慮し、専任教員等の配置を「講師１」に増員、変更（該当教員はAC審査済）。
・「国語表現法」「国際社会と日本」「児童家庭福祉」「教職概論」「児童文化」について教育効果を考慮し、配当年次を変更。

【令和元年度】

・昇任により、「人間関係指導法」、「乳児保育」、「こどもの保健Ⅱ」、「こどもの保健Ⅲ」の専任教員等の配置を「准教授１」から「教授１」に変更。
・教職課程再課程及び保育士養成課程変更に伴い、授業科目として「幼児の音楽表現Ⅰ」、「幼児の音楽表現Ⅱ」、「幼児の造形表現Ⅰ」、「幼児の造形表現Ⅱ」、「幼児の健康」、「幼児の環境」、「幼児の言葉」を新設。
・保育士養成課程変更により、授業科目の名称を「児童家庭福祉」、「社会的養護」、「社会的養護内容」、「障がい児保育Ⅰ」、「こどもの保健Ⅰ」から「子ども家庭福祉」、「社会的養護Ⅰ」、「社会的養護Ⅱ」、「障がい児保育」、「子どもの保健」に変更。
・「社会的養護Ⅱ」について、専任教員等の配置を「教授１」から「准教授１」に変更。
・教育的観点から教養科目として「あそび入門」を新設し、専任教員等の配置を「教授３」「助教１」に変更。
・教育的観点から教養科目として「心理学」を新設し、専任教員等の配置を「兼任・兼担１」に変更。
・教育的観点から「保育実習指導Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授１」から「教授２」に変更。

（注）・　２（１）ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・　変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
・　不要な年度（平成２９年度開設であれば平成２８年度）の表は適宜削除してください。

（２） 授業科目数

設置時の計画				更状況				備考
必修	選択	自由	計（Ａ）	必修	選択	自由	計	
22 科目	65 科目	科目	87 科目	25 科目 [3]	63 科目 [△2]	科目 [ ]	88 科目 [1]	

（注）・　未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、［　］内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：１科目減の場合：△１）

（３） 未開講科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
	特記事項なし					

（注）・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

（４） 廃止科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	宗教と倫理	2	1	一般	選択	教養科目見直しに伴う

（注）・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

（５） 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

完成年度を迎えるにあたり、教養科目を見直しを図った結果であるが、別途、追加された科目もある（あそび入門）。廃止科目は１年次開講科目であり、新入生は新教育課程下での履修状況にあり、支障はない。２年生も１年次に卒業に必要となる教養科目を履修しており、本科目が廃止されることの影響はないものと考える。

（注）・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

（６） 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{1}{88} = 1.13\%$$

（注）・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

３　施設・設備の整備状況，経費

区分		内容				備考
(1) 校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	1,485.95㎡	0㎡	0㎡	1,485.95㎡	
	運動場用地	887.96㎡	0㎡	0㎡	887.96㎡	
	小計	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡	
	その他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡	
	合計	2,373.91㎡	0㎡	0㎡	2,373.91㎡	
(2) 校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	ユマニテク調理製菓専門学校 収容定員265名 必要面積920㎡
		3,194.79㎡ (3,194.79㎡)	86.2㎡ (86.2㎡)	1,138.8㎡ (1,138.2㎡)	4,414.79㎡ (4,414.79㎡)	

(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	備考
	6室	2室	1室	1室 (補助職員　1人)	0室 (補助職員　0人)	

(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	備考
	幼児保育学科	14室	

(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	備考
	幼児保育学科	7,328〔68〕 (7,515〔68〕)	61〔 2 〕 (61〔 2 〕)	0〔 0 〕 (0〔 0 〕)	213 219	21 (21)	0 (0)	
	計	7,328〔68〕 (7,515〔68〕)	61〔 2 〕 (61〔 2 〕)	0〔 0 〕 (0〔 0 〕)	213 219	21 (21)	0 (0)	

(6) 図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	備考
	196.08㎡	62席	14,220冊	

(7) 体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	備考
	507.60 ㎡		

(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	備考
経費の見積り	教員１人当り研究費等	250千円	250千円	図書購入費	28,533千円	5,264千円 ~~5,647千円~~	1,650千円	設計計画にかかる変更はなかったが、図書装備委託費の作業費に変更とOPAK利用料が発生しなかった為、減額となった。設備購入費については、予算執行の結果による。（30）
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	109,459千円	999千円 ~~1,000千円~~	1,000千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,100千円	850千円	千円	千円	千円	千円

学生納付金以外の維持方法の概要	雑収入、私立大学等経常費補助金等

（注）・　設置時の計画を、申請書の様式第２号（その１の１）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（１）校地等」及び「（２）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はＡＣ対象学部等の数値を記入してください。）

・　運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。

・　「(５)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年５月１日現在の数値を記入してください。

・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（元）」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

・　校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。

・　国立大学については「（８）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

４．既設大学等の状況

大学の名称	該当なし									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度（AC期間の学科のみ）	開設年度	所在地	

大学の名称	ユマニテク短期大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度（AC期間の学科のみ）	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍				
幼児保育学科	2	100	－	200	短期大学士（幼児保育学）	0.59	－	平成29年度	三重県四日市市南浜田町4-21	

（注）・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の５月１日現在の状況を記入してください。（専攻科及び別科を除く）。

・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

・本年度ＡＣ対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。

・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き（平成31年度改訂版）」と同じです。

・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5　教員組織の状況

＜幼児保育学科＞

（1）ー① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	堀　建治 (48) ＜平成29年４月＞ 修士（教育）	保育原理 保育内容総論 健康指導法 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育・教職実践演習 教育と社会 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習Ⅱ 幼稚園教育実習事前事後指導 子育て支援演習
専	教授	安藤恭子 (69) ＜平成29年４月＞ 教育学学士	保育表現技術Ⅱ(造形) 幼児の図画工作Ⅰ 幼児の図画工作Ⅱ
専	教授	藤塚岳子 (65) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）	人間関係指導法 言葉指導法 保育表現技術Ⅳ(言葉) 保育・教職実践演習 児童文化 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習Ⅱ 幼稚園教育実習事前事後指導
専	教授	安藤和彦 (70) ＜平成29年4月＞ 文学修士	教職概論 児童家庭福祉 家庭支援論 社会的養護内容 社会的養護
専	教授	田中雅章 (58) ＜平成29年4月＞ 博士（工学）	情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ 教育方法と技術 地域ボランティア実践 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ
専	教授	伊藤　康明 (70) ＜平成29年４月＞ 教育学士	生活とかがく 幼児の生活Ⅰ 幼児の生活Ⅱ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ
専	准教授	山野栄子 (69) ＜平成29年４月＞ 準学士	こどもの保健Ⅱ こどもの保健Ⅲ 人間関係指導法 乳児保育 障がい児保育Ⅰ 障がい児の理解
専	准教授	桂山たかみ（生川孝美） (44) ＜平成29年４月＞ 学士（音楽）	リズム遊び 保育表現技術(音楽) 幼児の音楽Ⅰ 幼児の音楽Ⅱ 幼児の音楽Ⅲ 幼児の音楽Ⅳ

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	堀　建治 (48) ＜平成29年４月＞ 修士（教育）	保育原理 保育内容総論 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 教育と社会 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習事前事後指導 **人間関係指導法**
専	教授	安藤恭子 (69) ＜平成29年４月＞ 教育学学士	幼児の図画工作Ⅰ 幼児の図画工作Ⅱ
専	**教授**	**川勝泰介 (65) ＜平成29年4月＞ 博士（教育学）**	**言葉指導法 児童文化 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習事前事後指導**
専	教授	安藤和彦 (70) ＜平成29年4月＞ 文学修士	教職概論 児童家庭福祉 社会的養護内容 社会的養護
専	教授	田中雅章 (59) ＜平成29年4月＞ 博士（工学）	情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ 教育方法と技術 地域ボランティア実践 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ
専	教授	伊藤　康明 (70) ＜平成29年４月＞ 教育学士	幼児の生活Ⅰ 幼児の生活Ⅱ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ
専	准教授	山野栄子 (69) ＜平成29年４月＞ 準学士	人間関係指導法 障がい児保育Ⅰ
専	准教授	桂山たかみ（生川孝美） (44) ＜平成29年４月＞ 学士（音楽）	リズム遊び 保育表現技術(音楽) 幼児の音楽Ⅰ 幼児の音楽Ⅱ 幼児の音楽Ⅲ 幼児の音楽Ⅳ

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	堀　建治 (49) ＜平成29年４月＞ 修士（教育）	保育原理 保育内容総論 健康指導法 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育・教職実践演習 教育と社会 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習Ⅱ 幼稚園教育実習事前事後指導 子育て支援演習 **保育指導法 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ**
専	教授	安藤恭子 (70) ＜平成29年４月＞ 教育学学士	保育表現技術Ⅱ(造形) 幼児の図画工作Ⅰ 幼児の図画工作Ⅱ
専	**教授**	**川勝泰介 (66) ＜平成29年4月＞ 博士（教育学）**	**言葉指導法 保育表現技術Ⅳ(言葉) 保育・教職実践演習 児童文化 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習Ⅱ 幼稚園教育実習事前事後指導**
専	教授	安藤和彦 (71) ＜平成29年4月＞ 文学修士	教職概論 児童家庭福祉 家庭支援論 社会的養護内容 社会的養護
専	教授	田中雅章 (59) ＜平成29年4月＞ 博士（工学）	情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ 教育方法と技術 地域ボランティア実践 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ
専	教授	伊藤　康明 (71) ＜平成29年４月＞ 教育学士	生活とかがく 幼児の生活Ⅰ 幼児の生活Ⅱ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ
専	准教授	山野栄子 (70) ＜平成29年４月＞ 準学士	こどもの保健Ⅱ こどもの保健Ⅲ 人間関係指導法 乳児保育 障がい児保育Ⅰ
専	准教授	桂山たかみ（生川孝美） (45) ＜平成29年４月＞ 学士（音楽）	リズム遊び 保育表現技術(音楽) 幼児の音楽Ⅰ 幼児の音楽Ⅱ 幼児の音楽Ⅲ 幼児の音楽Ⅳ

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	堀　建治 (50) ＜平成29年４月＞ 修士（教育）	保育原理 保育内容総論 健康指導法 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育・教職実践演習 教育と社会 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習Ⅱ 幼稚園教育実習事前事後指導 子育て支援演習
専	教授	安藤恭子 (71) ＜平成29年４月＞ 教育学学士	保育表現技術Ⅱ(造形) **あそび入門 幼児の造形表現Ⅰ 幼児の造形表現Ⅱ**
専	**教授**	**川勝泰介 (67) ＜平成29年4月＞ 博士（教育学）**	**あそび入門 言葉指導法 保育指導法 保育表現技術演習Ⅳ（言葉）**
専	教授	安藤和彦 (72) ＜平成29年4月＞ 文学修士	教職概論 児童家庭福祉 家庭支援論 **社会的養護Ⅰ 保育実習指導Ⅰ**
専	教授	田中雅章 (60) ＜平成29年4月＞ 博士（工学）	情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ 教育方法と技術 地域ボランティア実践 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ
専	教授	伊藤　康明 (72) ＜平成29年４月＞ 教育学士	生活とかがく **幼児の環境 あそび 地域ボランティア実践**
専	**教授**	山野栄子 (71) ＜平成29年４月＞ 準学士	こどもの保健Ⅱ こどもの保健Ⅲ 人間関係指導法 乳児保育
専	准教授	桂山たかみ（生川孝美） (46) ＜平成29年４月＞ 学士（音楽）	リズム遊び 保育表現技術(音楽) **幼児の音楽表現Ⅰ 幼児の音楽表現Ⅱ** 幼児の音楽Ⅲ 幼児の音楽Ⅳ

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	十津守宏 (43) ＜平成29年４月＞ 修士（文学）	宗教と倫理 人間の生と死 現代社会と環境 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 地域ボランティア実践
専	講師	松本亜香里 (35) ＜平成29年４月＞ 修士（音楽学）	表現指導法 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育教職実践演習 幼児の音楽Ⅰ 幼児の音楽Ⅱ 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習Ⅱ 幼稚園教育実習事前事後指導
専	講師	田村禎章 (35) ＜平成29年4月＞ 修士（社会福祉学）	社会福祉 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ レクリエーション論 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ
専	助教	伊藤喬治 (34) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）	保育・教職実践演習 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 子育て支援演習
専	助教	田中秀和 (34) ＜平成29年4月＞ 修士（社会福祉学）	相談援助 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 子育て支援演習 地域ボランティア実践

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	十津守宏 (43) ＜平成29年４月＞ 修士（文学）	宗教と倫理 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 地域ボランティア実践
専	講師	松本亜香里 (35) ＜平成29年４月＞ 修士（音楽学）	表現指導法 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 幼児の音楽Ⅰ 幼児の音楽Ⅱ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ
専	講師	田村禎章 (35) ＜平成29年4月＞ 修士（社会福祉学）	社会福祉 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ レクリエーション論 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ
専	助教	伊藤喬治 (34) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）	保育・教職実践演習 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 子育て支援演習
専	助教	丸山あけみ (54) ＜平成29年10月＞ 学士	保育実習指導Ⅰ 基礎ゼミナールⅡ 地域ボランティア実践

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	十津守宏 (44) ＜平成29年４月＞ 修士（文学）	宗教と倫理 人間の生と死 現代社会と環境 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 地域ボランティア実践
専	准教授	松本亜香里 (36) ＜平成29年４月＞ 修士（音楽学）	表現指導法 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育教職実践演習 幼児の音楽Ⅰ 幼児の音楽Ⅱ 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習Ⅱ 幼稚園教育実習事前事後指導
専	講師	田村禎章 (36) ＜平成29年4月＞ 修士（社会福祉学）	社会福祉 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ レクリエーション論 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ
専	助教	伊藤喬治 (35) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）	保育・教職実践演習 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 子育て支援演習 教育原理 教育と社会
専	助教	丸山あけみ (55) ＜平成29年10月＞ 修士（社会福祉学）	障がい児保育Ⅰ 教育・保育相談 相談援助 障がい児の理解 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 子育て支援演習 地域ボランティア実践

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	平松喜代江 (46) ＜平成31年４月＞ 修士（社会福祉学）	社会的養護Ⅱ 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育・教職実践演習 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ
専	准教授	松本亜香里 (37) ＜平成29年４月＞ 修士（音楽学）	表現指導法 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育・教職実践演習 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習Ⅱ 幼稚園教育実習事前事後指導
専	講師	田村禎章 (37) ＜平成29年4月＞ 修士（社会福祉学）	社会福祉 相談援助 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ レクリエーション論 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ
専	助教	伊藤喬治 (36) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）	保育・教職実践演習 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 子育て支援演習 教育原理 教育と社会 障がい児保育

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	渡邊　明宏 (33) ＜平成29年４月＞ 修士（人間文化）	保育表現技術Ⅲ(身体) 保育・教職実践演習 幼児の体育Ⅰ 幼児の体育Ⅱ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習Ⅱ 幼稚園教育実習事前事後指導
兼任	講師	横井一之 (60) ＜平成30年4月＞ 教育学修士	環境指導法
兼任	講師	吉弘淳一 (52) ＜平成30年４月＞ 修士(教育学)・修士(社会福祉学)	教育・保育相談
兼任	講師	安田誠人 (49) ＜平成30年4月＞ 教育学修士	障がい児保育Ⅱ
兼任	講師	宮坂朋幸 (49) ＜平成29年4月＞ 博士（教育学）	教育原理
兼任	講師	八木　朋子 (43) ＜平成29年4月＞ 修士（人間発達学）	教育心理学 保育の心理学
兼任	講師	李　智基 (49) ＜平成29年4月＞ 博士（法学）	日本国憲法 法の精神
兼任	講師	岸田　恵 (41) ＜平成29年4月＞ 準学士	幼児の音楽Ⅰ 幼児の音楽Ⅱ 幼児の音楽Ⅲ 幼児の音楽Ⅳ
兼任	講師	宮田　美佐 (44) ＜平成29年4月＞ 学士（音楽）	幼児の音楽Ⅰ 幼児の音楽Ⅱ 幼児の音楽Ⅲ 幼児の音楽Ⅳ
兼任	講師	小島　佳子 (65) ＜平成30年4月＞ 国立幼稚園教員養成所	乳幼児の理解 障がい児の支援
兼任	講師	鈴木　壽眞子 (65) ＜平成30年4月＞ 国立幼稚園教員養成所	児童館・放課後クラブの機能と運営 児童館・放課後クラブの活動内容と指導法
兼任	講師	片山　恵里 (41) ＜平成29年４月＞ 学士（教養）	こどもの保健Ⅰ
兼任	講師	井出　裕子 (31) ＜平成30年４月＞ 準学士	こどもの食と栄養
兼任	講師	中尾　聡 (52) ＜平成29年10月＞ 体育学士	人間と健康 スポーツ・レクリエーション実技

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	渡邊　明宏 (33) ＜平成29年４月＞ 修士（人間文化）	幼児の体育Ⅰ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習事前事後指導
兼任	講師	宮坂朋幸 (49) ＜平成29年4月＞ 博士（教育学）	教育原理
兼任	講師	八木　朋子 (43) ＜平成29年4月＞ 修士（人間発達学）	教育心理学
兼任	講師	李　智基 (49) ＜平成29年4月＞ 博士（法学）	日本国憲法
兼任	講師	岸田　恵 (41) ＜平成29年4月＞ 準学士	幼児の音楽Ⅰ 幼児の音楽Ⅱ 幼児の音楽Ⅲ 幼児の音楽Ⅳ
兼任	講師	宮田　美佐 (44) ＜平成29年4月＞ 学士（音楽）	幼児の音楽Ⅰ 幼児の音楽Ⅱ 幼児の音楽Ⅲ 幼児の音楽Ⅳ
兼任	講師	片山　恵里 (41) ＜平成29年４月＞ 学士（教養）	こどもの保健Ⅰ

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	渡邊　明宏 (34) ＜平成29年４月＞ 修士（人間文化）	保育表現技術Ⅲ(身体) 保育・教職実践演習 幼児の体育Ⅰ 幼児の体育Ⅱ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習Ⅱ 幼稚園教育実習事前事後指導
兼任	講師	横井一之 (61) ＜平成30年4月＞ 教育学修士	環境指導法
兼任	講師	吉弘淳一 (53) ＜平成30年４月＞ 修士(教育学)・修士(社会福祉学)	教育・保育相談
兼任	講師	安田誠人 (50) ＜平成30年4月＞ 教育学修士	障がい児保育Ⅱ
兼任	講師	宮坂朋幸 (50) ＜平成29年4月＞ 博士（教育学）	教育原理
兼任	講師	八木　朋子 (44) ＜平成29年4月＞ 修士（人間発達学）	教育心理学 保育の心理学
兼任	講師	李　智基 (50) ＜平成29年4月＞ 博士（法学）	日本国憲法 法の精神
兼任	講師	岸田　恵 (42) ＜平成29年4月＞ 準学士	幼児の音楽Ⅰ 幼児の音楽Ⅱ 幼児の音楽Ⅲ 幼児の音楽Ⅳ
兼任	講師	宮田　美佐 (45) ＜平成29年4月＞ 学士（音楽）	幼児の音楽Ⅰ 幼児の音楽Ⅱ 幼児の音楽Ⅲ 幼児の音楽Ⅳ
兼任	講師	小島　佳子 (66) ＜平成30年4月＞ 国立幼稚園教員養成所	乳幼児の理解 障がい児の支援
兼任	講師	鈴木　壽眞子 (66) ＜平成30年4月＞ 国立幼稚園教員養成所	児童館・放課後クラブの機能と運営 児童館・放課後クラブの活動内容と指導法
兼任	講師	片山　恵里 (42) ＜平成29年４月＞ 学士（教養）	こどもの保健Ⅰ
兼任	講師	井出　裕子 (32) ＜平成30年４月＞ 準学士	こどもの食と栄養

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	渡邊　明宏 (35) ＜平成29年４月＞ 修士（人間文化）	保育表現技術Ⅲ(身体) 保育・教職実践演習 **幼児の健康** 幼児の体育Ⅱ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習Ⅱ 幼稚園教育実習事前事後指導
兼任	講師	横井一之 (62) ＜平成30年4月＞ 教育学修士	環境指導法
兼任	講師	吉弘淳一 (54) ＜平成30年４月＞ 修士(教育学)・修士(社会福祉学)	教育・保育相談
兼任	講師	安田誠人 (51) ＜平成30年4月＞ 教育学修士	障がい児保育Ⅱ
兼任	講師	宮坂朋幸 (51) ＜平成29年4月＞ 博士（教育学）	教育原理
兼任	講師	八木　朋子 (45) ＜平成29年4月＞ 修士（人間発達学）	教育心理学 保育の心理学
兼任	講師	岸田　恵 (43) ＜平成29年4月＞ 準学士	**幼児の音楽表現Ⅰ** **幼児の音楽表現Ⅱ** 幼児の音楽Ⅲ 幼児の音楽Ⅳ
兼任	講師	宮田　美佐 (46) ＜平成29年4月＞ 学士（音楽）	**幼児の音楽表現Ⅰ** **幼児の音楽表現Ⅱ** 幼児の音楽Ⅲ 幼児の音楽Ⅳ
兼任	講師	小島　佳子 (67) ＜平成30年4月＞ 国立幼稚園教員養成所	乳幼児の理解 障がい児の支援
兼任	講師	鈴木　壽眞子 (67) ＜平成30年4月＞ 国立幼稚園教員養成所	児童館・放課後クラブの機能と運営 児童館・放課後クラブの活動内容と指導法 **障がい児の理解** **子どもの保健**
兼任	講師	井出　裕子 (33) ＜平成30年４月＞ 準学士	こどもの食と栄養

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	施　昶妃 (41) ＜平成29年4月＞ MBA	外国語コミュニケーションⅠ(中国語) 外国語コミュニケーションⅡ(中国語)
兼任	講師	長谷川　紀子 (56) ＜平成29年４月＞ 博士（教育）	外国語コミュニケーションⅠ(英語) 外国語コミュニケーションⅡ(英語)
兼任	講師	加藤　扶久美 (67) ＜平成29年４月＞ 学術修士	多文化共生とことば 国語表現法 国際社会と日本
兼任	講師	鈴木　建生 (61) ＜平成30年4月＞ 文学士	地域とくらし くらしと経済
兼任	講師	山本　典子 (51) ＜平成29年４月＞ 準学士	キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ
兼任	講師	渡辺　一弘 (55) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）	教育課程論

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	鬼塚　絢子 (28) ＜平成29年４月＞ 修士（スポーツ科学）	人間と健康
兼任	講師	藤田礼子 (58) ＜平成29年4月＞ 体育学士	スポーツ・レクリエーション実技
兼任	講師	施　昶妃 (41) ＜平成29年4月＞ MBA	外国語コミュニケーションⅠ(中国語) 外国語コミュニケーションⅡ(中国語)
兼任	講師	長谷川　紀子 (56) ＜平成29年４月＞ 博士（教育）	外国語コミュニケーションⅠ(英語) 外国語コミュニケーションⅡ(英語)
兼任	講師	加藤　扶久美 (67) ＜平成29年４月＞ 学術修士	国語表現法 国際社会と日本
		山本　典子 (51) ＜平成29年４月＞ 準学士	キャリアデザインⅠ
兼任	講師	渡辺　一弘 (55) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）	教育課程論

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	鬼塚　絢子 (29) ＜平成29年４月＞ 修士（スポーツ科学）	人間と健康 スポーツ・レクリエーション実技
兼任	講師	施　昶妃 (42) ＜平成29年4月＞ MBA	外国語コミュニケーションⅠ(中国語) 外国語コミュニケーションⅡ(中国語)
兼任	講師	長谷川　紀子 (57) ＜平成29年４月＞ 博士（教育）	外国語コミュニケーションⅠ(英語) 外国語コミュニケーションⅡ(英語)
兼任	講師	加藤　扶久美 (68) ＜平成29年４月＞ 学術修士	多文化共生とことば 国語表現法 国際社会と日本
兼任	講師	藤田　泰樹 (66) ＜平成30年4月＞ 農学士	地域とくらし くらしと経済
兼任	講師	山本　典子 (52) ＜平成29年4月＞ 準学士	キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ
兼任	講師	渡辺　一弘 (56) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）	教育課程論
兼任	講師	村木　清子 (62) ＜平成30年4月＞ 準学士	幼児の音楽表現Ⅰ 幼児の音楽表現Ⅱ 幼児の音楽Ⅲ 幼児の音楽Ⅳ
兼任	講師	武田　潔子 (77) ＜平成30年4月＞ 高等学校	子育て支援演習

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	鬼塚　絢子 (30) ＜平成29年４月＞ 修士（スポーツ科学）	人間と健康 スポーツ・レクリエーション実技
兼任	講師	施　昶妃 (43) ＜平成29年4月＞ MBA	外国語コミュニケーションⅠ(中国語) 外国語コミュニケーションⅡ(中国語)
兼任	講師	長谷川　紀子 (58) ＜平成29年４月＞ 博士（教育）	外国語コミュニケーションⅠ(英語) 外国語コミュニケーションⅡ(英語)
兼任	講師	加藤　扶久美 (69) ＜平成29年４月＞ 学術修士	多文化共生とことば 国語表現法 国際社会と日本
兼任	講師	藤田　泰樹 (67) ＜平成30年4月＞ 農学士	地域とくらし くらしと経済
兼任	講師	山本　典子 (53) ＜平成29年4月＞ 準学士	キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ
兼任	講師	渡辺　一弘 (57) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）	教育課程論
兼任	講師	村木　清子 (63) ＜平成30年4月＞ 準学士	幼児の音楽表現Ⅰ 幼児の音楽表現Ⅱ 幼児の音楽Ⅲ 幼児の音楽Ⅳ
兼任	講師	早川　秋子 (50) ＜平成31年4月＞ 博士（法学）	日本国憲法
兼任	講師	菅田　達也 (56) ＜平成31年4月＞ 文学修士	心理学
兼任	講師	泰　康樹 (52) ＜平成31年4月＞ 芸術学士	幼児の音楽表現Ⅰ 幼児の音楽表現Ⅱ

・　年齢は，**それぞれの年度の５月１日時点の満年齢**を記入してください。
・　専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼担、兼任の順に記入してください。
・　不要な年度（平成２９年度開設であれば平成２８年度）の表は適宜削除し、詰めてください。

（１）ー②担当教員表に関する変更内容

【平成２９年度】

・藤塚岳子教授就任辞退。平成２９年４月から川勝泰介教授に変更、平成２９年１月教員審査済み。
・田中秀和助教就任辞退。平成２９年１０月から丸山あけみ助教に変更、平成２９年４月教員審査済み。
・中尾聡兼任講師就任辞退。平成２９年４月から鬼塚絢子兼任講師(人間と健康)、脇田礼子兼任講師(スポーツ・レクリエーション実技)に変更教員審査省略。

【平成３０年度】

・松本亜香里講師、職位変更により講師から准教授に昇任、平成３０年１月教員審査済み。
・鈴木建生兼任講師就任辞退。担当科目(地域とくらし、くらしと経済)は、平成３０年４月から藤田泰樹兼任講師に変更教員審査省略。
・脇田礼子兼任講師辞任。担当科目(スポーツ・レクリエーション実技)は鬼塚絢子兼任講師が担当教員審査省略。
・田村禎章専任講師、担当科目追加(専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナールⅡ)平成３０年１月教員審査済み。
・丸山あけみ専任助教、担当科目追加(障がい児の理解)平成２９年４月教員審査済み。
・伊藤喬治専任助教、担当科目追加(教育原理、教育と社会)平成３０年１月教員審査済み。
・丸山あけみ専任助教、担当科目追加（教育・保健相談）平成30年1月教員審査済み。
・村木清子兼任教員就任。担当科目（幼児の音楽Ⅰ・幼児の音楽Ⅱ・幼児の音楽Ⅲ・幼児の音楽Ⅳ）教員審査省略。
・武田潔子兼任教員就任。担当科目（子育て支援演習）教員審査省略。

【令和元年度】

・十津守宏専任准教授辞任。担当科目については桂山たかみ専任准教授が基礎ゼミナールⅠ、基礎ゼミナールⅡ、専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナールⅡ担当。廃止科目（宗教と倫理）、開講科目（人間の生と死、現代社会と環境）。
・丸山あけみ専任助教辞任。平成３１年４月から平松喜代江専任准教授授就任。授業科目担当（保育実習Ⅰ、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅲ、保育実習Ⅲ指導、基礎ゼミナールⅠ、基礎ゼミナールⅡ、専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナールⅡ、子育て支援演習）。
・山野栄子専任准教授、職位変更により教授に昇任。
・田村禎章専任講師、担当科目追加(相談援助、地域ボランティア実践)。
・伊藤喬治専任助教、担当科目追加(障がい児保育)。
・鈴木壽眞子兼任講師、担当科目追加（障がい児の理解）。
・片山恵里兼任講師辞任、担当科目（こどもの保健Ⅰ）は鈴木壽眞子兼任講師が担当。
・李智基兼任講師辞任。担当科目（日本国憲法）は早川秋子兼任講師が担当。
・武田潔子兼任教員辞任。
・安藤恭子専任教授、伊藤康明専任教授、伊藤喬治専任助教、担当科目追加（あそび入門）。
・安藤和彦専任教授、科目追加担当（保育実習指導Ⅰ）
・安藤恭子専任教授、幼稚園教職課程再課程認定に伴い新設科目担当（幼児の造形表現Ⅰ、幼児の造形表現Ⅱ）。
・伊藤康明専任教授、幼稚園教職課程再課程認定に伴い新設科目担当（幼児の環境）。
・桂山たかみ専任准教授、岸田恵兼任講師、宮田美佳兼任講師、村木清子兼任講師、幼稚園教職課程再課程認定に伴い新設科目担当（幼児の音楽表現Ⅰ、幼児の音楽表現Ⅱ）。
・渡邊明宏専任助教、幼稚園教職課程再課程認定に伴い新設科目担当（幼児の健康）。
・菅田達也兼任講師就任。新設科目担当（心理学）。
・森摩樹兼任講師就任。新設科目担当（幼児の音楽表現Ⅰ、幼児の音楽表現Ⅱ）
・

（注）・　変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・　**認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合**は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
・　「専任教員採用等変更書（ＡＣ）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
・　不要な年度（平成２９年度開設であれば平成２８年度）の表は適宜削除してください。

（２） 専任教員数等

（２）－①　設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
11 名	4 名

（注）・　大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

（２）－②　専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教　授	准教授	講　師	助　教	計（A）	教　授	准教授	講　師	助　教	計（B）
6	3	2	3	14	7	3	1	2	13
6	3	2	3	14					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教　授	准教授	講　師	助　教	計（C）	教　授	准教授	講　師	助　教	計（D）
7	3	1	2	13	7	3	1	2	13
[1]	[　]	[△1]	[△1]	[△1]	[1]	[　]	[△1]	[△1]	[△1]

（注）・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（　）内に開設時の状況を記入してください。
・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の５月１日の教員数（実人数）を記入してください。
・**「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、［　］内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：１名減の場合：△１）
・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、［　］内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：１名減の場合：△１）

（２）－③　年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員うち、定年を延長して採用する教員数
64 歳	5 名	5 名

（注）・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の５月１日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
［　］内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：１名減の場合：△１）

（２）－④　設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{13}{14} = \boxed{92.85}\ \%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（２）－⑤　現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{5}{13} = \boxed{38.46}\ \%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（３） 専任教員辞任等の理由

（３）－①　専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
1	教授	藤塚　岳子	H28.12	必修	言葉指導法	①	健康上の都合のため就任辞退（29）
				選択	保育表現技術Ⅳ(言葉)	①	
				必修	人間関係指導法	①	
				選択	児童文化	①	
				必修	基礎ゼミナールⅠ	①	
				必修	基礎ゼミナールⅡ	①	
				必修	専門ゼミナールⅠ	①	
				必修	専門ゼミナールⅡ	①	
				選択	幼稚園教育実習Ⅰ	①	
				選択	幼稚園教育実習Ⅱ	①	
				選択	幼稚園教育実習事前事後指導	①	
				必修	保育指導法	①	
2	助教	田中　秀和	H28.12	選択	社会的養護	①	健康上の都合のため就任辞退（29）
				選択	相談援助	①	
				選択	保育実習Ⅰ	①	
				選択	保育実習指導Ⅰ	①	
				選択	保育実習Ⅲ	①	
				選択	保育実習指導Ⅲ	①	
				必修	基礎ゼミナールⅠ	①	
				必修	基礎ゼミナールⅡ	①	
				必修	専門ゼミナールⅠ	①	
				必修	専門ゼミナールⅡ	①	
				選択	障がい児の理解	①	
				必修	子育て支援演習	①	
				必修	地域ボランティア実践	①	

合計（Ｄ）				後任補充状況の集計（Ｅ）							
就任を辞退した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）	
2　人	必修	9	科目	必修	9	科目	必修	0	科目	必修	0 科目
	選択	12	科目	選択	12	科目	選択	0	科目	選択	0 科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0 科目
	計	21	科目	計	21	科目	計	0	科目	計	0 科目

（注）・　認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
・　「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。
就任した後に辞任した教員は、以下「（３）－②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、
「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（　）書きで報告年度を記入してください。
・　また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、
「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（３）－②　専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	准教授	十津　守弘	H31.3	選択	宗教と倫理	③	H31.3.31付け学園本部異動のため辞任（30）
				選択	人間の生と死	③	
				選択	現代社会と環境	③	
				必修	基礎ゼミナールⅠ	①	
				必修	基礎ゼミナールⅠ	①	
				必修	専門ゼミナールⅠ	①	
				必修	専門ゼミナールⅡ	①	
				必修	地域ボランティア実践	①	
2	助教	丸山　あけみ	H31.3	必修	教育・保育相談	②	H31.3.31付け他専修学校教員就任のため辞任（30）
				選択	相談援助	①	
				選択	障がい児保育Ⅰ	①	
				選択	障がい児の理解	②	
				選択	保育実習Ⅰ	③	
				選択	保育実習指導Ⅰ	③	
				選択	保育実習Ⅲ	③	
				選択	保育実習指導Ⅲ	③	
				必修	基礎ゼミナールⅠ	①	
				必修	基礎ゼミナールⅠ	①	
				必修	専門ゼミナールⅠ	①	
				必修	専門ゼミナールⅡ	①	
				必修	地域ボランティア実践	①	

合計（F）				後任補充状況の集計（G）								
辞任した教員数	担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）		
2 人	必修	6	科目	必修	5	科目	必修	1	科目	必修	0	科目
	選択	13	科目	選択	10	科目	選択	0	科目	選択	3	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	19	科目	計	15	科目	計	1	科目	計	3	科目

（注）・　一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**についてに記入してください。
・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（　）書きで報告年度を記入してください。
・　また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（３）－③　上記（３）－①　・　（３）－②　の合計

合計（D）＋（F）				後任補充状況の集計（E）＋（G）								
辞任等した教員数	担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）		
4 人	必修	15	科目	必修	14	科目	必修	1	科目	必修	0	科目
	選択	25	科目	選択	22	科目	選択	0	科目	選択	3	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	40	科目	計	36	科目	計	1	科目	計	3	科目

（３）－④　設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{4}{14} = \boxed{28.57}\ \%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（３）ー⑤　定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		特になし				

合計				後任補充状況の集計							
辞任した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0　人	必修	0	科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0	科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0	科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	0	科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

（注）・　**定年により退職した全ての専任教員**についてに記入してください。
・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（　）書きで報告年度を記入してください。
・　また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（４）専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

本学においては開学前に健康上の理由等で2名の就任辞退者が発生した。かかる状況の下で不幸中の幸いであったのは、就任辞退者2人のうちいずれもが着任前の所謂就任辞退であったため、速やかに後任予定教員の選定並びにＡＣ教員審査手続きが就任辞退者の担当予定科目の開講前に完了したこと、並びに入学生と全く接点を持つことなく就任辞退となったため、開講期間途上での教員交代という学生の就学の悪影響を及ぼす事態が回避出来たことである。後任予定教員が前任者のシラバス・講義内容を原則としてそのまま継承したことから、学生に配布する学生便覧等の修正作業も最小限で済み、特段カリキュラム運営並びに学生の就学について、かかる就任辞退者の発生が悪影響を及ぼすことがなかったと本学では認識している。加えて、その開学後は辞任者は出ていないことから、教育上の支障はこの観点からも特段生じていないと認識している。

（注）・　上記（３）の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

６　附帯事項等に対する履行状況等

区　　分	附　帯　事　項　等		履　行　状　況		今後の の実施計画
認　可　時 （２８年１０月）	設置の趣旨・目的が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から短期大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	留意事項	誠に遺憾なことながら２名の就任辞退教員が出たため、かかる２名の就任辞退により短期大学としての教育の質の担保を図るべく、可及的速やかに後任補充を余儀なくされた担当科目に対して専任教員の補充を計画し教員審査についての申請を行い、審査を受け「可」の判定を得た。加えて、短期大学としての教育の質的維持・向上を図るべくＦＤ研修会等を実施しており、また公務員試験対策講座を実施するなど、課外での補講等も実施している。	履行済	
認　可　時 （２８年１０月）	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。	留意事項	完成年次に退任予定である５名の教授の補充をより円滑ならしめるべく、新規採用教員を確保するための全国公募の実施を検討している。また、前記のことに加えて、学内の教員の研鑽・教育能力向上を目的としたＦＤ研修会の実施等も計画しており、在職中の教員の資質向上にも積極的に取組んでいる。	履行済	
認　可　時 （２８年１０月）	「こどもの食と栄養」で行う調理実習は学外の実習施設を利用する計画であるため、授業時間を十分に確保することはもとより、学生の休憩時間にも配慮して授業を実施することが望ましい。	留意事項	かかる指摘を受け、時間割編成に際しては学生の移動等にかかる時間が十分確保できるよう、十分な配慮を行った。	履行済	
設置計画履行状況調　査　時 （２９年）	幼児保育学科の定員充足率の平均が０．７倍未満となっていることから，学生確保に努めるとともに，入学定員の見直しについて検討すること。	改善事項	学生募集に関る入学者選抜方法を抜本的に見直すとともに、奨学金制度の拡充・入学者選抜方法の個々の学生りのニーズに合わせた多様化等の施策により、より入学者を確保すべく鋭意様々な施策を講じているところである。	履行済	

設置計画履行状況調査時（２９年）	幼児保育学科において，定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから，定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに，教員組織編制の将来構想について検討すること。	改善意見	完成年次に退任予定である５名の教授の補充をより円滑ならしめるべく、新規採用教員を確保するための全国公募の実施を検討している。また、前記のことに加えて、学内の教員の研鑽・教育能力向上を目的としたＦＤ研修会、新任教員を対象とした研修会等も実施し、加えて論文の執筆・学会発表等の実施を在職中の教員にすべからく推奨しており、本学教員の資質向上にも積極的に取組んでいる。従って、後進の教員養成は順調に推移しているものと認識している。	履行済	
設置計画履行状況調査時（３０年）	規定された３つのポリシーの内容が不十分なため，法令等を踏まえて適切に修正すること。	指摘事項（改善）	３つのポリシーについて、年度当初より大学挙げて検討すべき最重要課題として認識しており、学内で議論を重ねているところである。本年度中に新ポリシーを策定し、令和２年度に提示するところである。	履行中	
設置計画履行状況調査時（３０年）	平均入学定員充足率が低いため，学生確保に努めるとともに，長期的な学生確保の見通しを客観的根拠に基づき分析し，入学定員の見直しも検討しつつ，収容定員の充足に努めること。	指摘事項（改善）	本年度の入学状況を鑑みると微増であるものの、開学当初より入学者は増えている。学科の魅力を各方面にアピールするとともに、なお一層効果のある広報活動の策定をする。	履行中	

（注）・　「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）　と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

・　「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。

・　「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。

・　該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。

・　「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

７　その他全般的事項

＜幼児保育学科＞

（１） 設置計画変更事項等

設　置　時　の　計　画	変更内容・状況、今後の見通しなど
①　施設・設備 ａ 図書　6,763冊 ｂ 図書購入費　28,759千円(開設前年度) 開設年度図書購入費　5,647千円	①施設・設備 ａ　平成29年度変更済み図書　7,328冊 令和元年5月1日現在　7,515冊 ｂ　平成29年度図書購入費　5,264千円 完成年度図書購入費　1,650千円 開設年度図書購入費については、5,264千円に訂正した。なぜなら設置経費にかかる変更はなかったが、図書整備委託費の作業費に変更と、OPAC利用料が発生しなかった為、設置時の計画より減額となった。完成年度時点での蔵書は7,515冊となり、予想数より微増した。 本学の最寄り駅から本学までの導線がわかりにくい為、視認性の高い案内標識を市道上に設置した。その費用は2,376千円であった。このことについては、平成29年12月18日付けで、設置計画変更協議を行い承認されている。

（注）・　１～６の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（２） 教員の資質の維持向上の方策（ＦＤ・ＳＤ活動含む）

①　実施体制

ａ　委員会の設置状況

学内に教務委員会に併設した形で、ＦＤ・ＳＤ委員会を設置（委員長は教務部長）

ｂ　委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

２～３ヶ月に一度程度のペースで当該委員会の開催している。

FD・SD委員会とは別に科研費申請に向けての研究倫理教育の実施（年１回）

ｃ　委員会の審議事項等

本学のＦＤ・ＳＤ活動に関すること（研修計画の立案。外部講師招聘に関する審議）

②　実施状況

ａ　実施内容

・　授業方法についての研修会
・　教員相互の授業参観を実施
・　新人教職員研修については、４月上旬、夏季の２回、学園本部総務部主導で学園全体で開催

ｂ　実施方法

・　FD・SD研修については、教授会開催日が全教員が出校するため教授会前後の時間を設定し実施

ｃ　開催状況

・全専任教職員に参加を義務づけている

ｄ　実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

・　FD・SD研修会ともに教職員の出席率は高く、授業改善に向けての取り組み意識は高い。
その成果を今後の授業運営にその結果・成果を反映させていきたいと考えている。

③　学生に対する授業評価アンケートの実施状況

ａ　実施の有無及び実施時期

実施時期については、前期、後期末に各開講科目毎に実施している。

ｂ　教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケートについては、統計処理を事務局教務課が行い、学科長確認の上、当該科目担当者に

その結果を紙面にて通知している。その結果に対するコメントを各担当教員は提出する。

学生に対しては事務室及び図書館に報告書を置き、自由に閲覧できるようにしている。

（注）・「①ａ　委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（３） 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

（４） 自己点検・評価等に関する事項

①　設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

豊かな人間性を育み、実践を中心とした教育を理念とし、「人としての優しさ」「他人を思いやる気持ち」を基本として、その精神を持った人材を育成し、将来の地域を支える次世代を担う人材を輩出することを目的として本学は開学された。開学以来２年1ヶ月を経て、かかる理念を具現化するために、豊富な知識と経験に裏打ちされた技術を、学生が修得できるよう、教員は1年次より保育・幼児教育に関する専門性の高い講義を特段の支障なく実施している。また、他者を思いやる精神の涵養への願いが込められたHumanという言葉と、知識と経験に裏打ちされた「技術」という意味を持つTechnologyという言葉を併せて創出された「ユマニテク(HUMANITEC)」という大学名は、豊かな人間性と実践を中心とした教育によって身に付く確かな技術という教育理念による専門職業人の養成を意味する言葉であるが、その言葉に含意された人間性の涵養もまた、教養科目の開講とその開講された教養科目を在学生の殆どが受講することにより実践してきたと本学では認識している。３月に初めての卒業生を輩出したが、２８名の卒業生のうち２６名が保育の専門職に就いた。その学生たちは本学で学んだことを今現場で実践していると確信する。今後もかかる教育理念に基づく人材の養成を図るべく、更なる教育内容の充実・実践に努めていきたいと考えている。

②　自己点検・評価報告書

ａ　公表（予定）時期

・令和元年８月１日　公表

ｂ　公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和元年８月末を予定）

③　認証評価を受ける計画

・令和４年度に評価機関（短期大学基準協会）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・　設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「①　設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「②　自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（５） 情報公表に関する事項

○　設置計画履行状況報告書（令和元年度）

ａ　ホームページへの公表予定の有無　（　有　・　無　）

ｂ　公表有の場合の公表（予定）時期　（　令和元　年　１０月　１日　）

ｂ　公表無の場合の特段の理由　（　　）

（注）・　今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。